

走れメロス コラボ群読劇

世界の補習校をつなぐ群読の輪



走れメロス 太宰治



3校、3つの声。
今、メロスが走り出す。
ご視聴下さい

招待リンク・資料のご要望は
k.kanaya@chicagohoshuko.comまで

1/24 第一部（前半）

シカゴ(IL | CST) : 12:40
サクラメント(CA | PST) : 10:40
ブルーミントン(IN | EST) : 13:40

2/14 第二部（後半）

シカゴ(IL | CST) : 12:40
サクラメント(CA | PST) : 10:40
ブルーミントン(IN | EST) : 13:40

3つのねらい

1 文学の「体感」化

単なる「理解」から一步踏み込みます。群読特有の感情・間・リズム・重なりを通して、文章の意味を身体化させ、作品世界を深く味わいます。



2 聴く力を本気で鍛える

他校の生徒の台詞を聞き逃すと全体が崩れてしまう緊張感の中で、「本気で聞く」姿勢が自然と育まれます。互いの呼吸を感じ合う体験です。



3 自己有用感と責任感

自分の声で作品を作り上げます。「一人欠けると成立しない」という状況が、生徒一人ひとりにかけがえのない役割と責任感を与えます。



通常授業との違い



表現と思考の深化

内容理解のための音読ではなく、「群読劇」という作品創りのため、感情表現や解釈を深く追求します。



未知との遭遇と責任感

出会ったことのない生徒と作り上げるワクワク感と、「失敗できない」という健全な緊張感が生まれます。



生徒主体の運営

当日の司会進行や背景画像の作成なども生徒たちが実施。自主性を重んじるプロジェクトです。



小規模校への機会提供

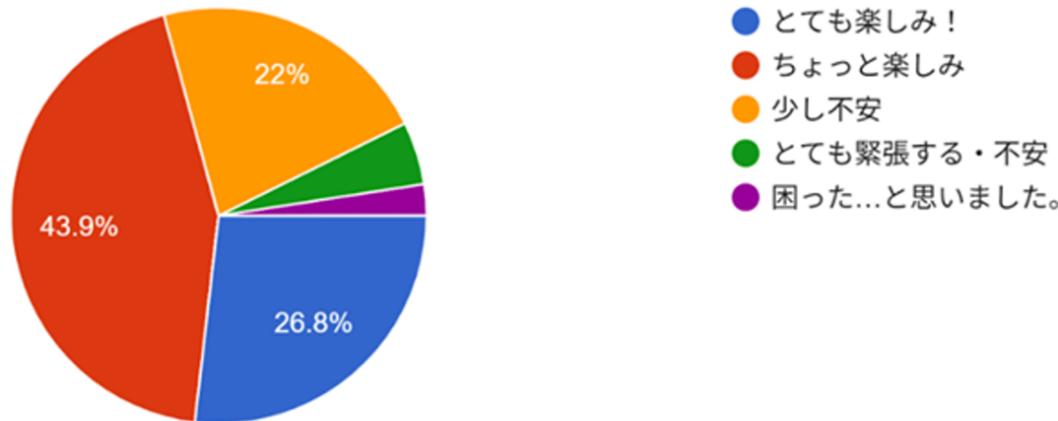
中2生徒が1名のブルーミントン校など、単独では実施不可能な「群読」の機会を創出します。

生徒の期待度

70.7% が楽しみにしていると回答

「走れメロス」の群読劇を他の補習校と合同でやると聞いて、どう思いましたか。

41 件の回答



走れメロス コラボ音読会

本番は2026年1月24日（前半）2月14日（後半） サクラメント補習校(現地時間10時40分～)・ブルーミントン補習校(現地時間13時40分～(2月14日は14時まで)) シカゴ補習校(現地時間12時40分～) リハ無し。1月24日に本番に突入ー本文の前半収録。2月14日に後半収録。

※ 1/24 前半本番
2/14後半本番

- メモ
・背景を場面の絵にする
・名前を「学校名+イニシャル」にする。google meetsにログインする際にかえる。

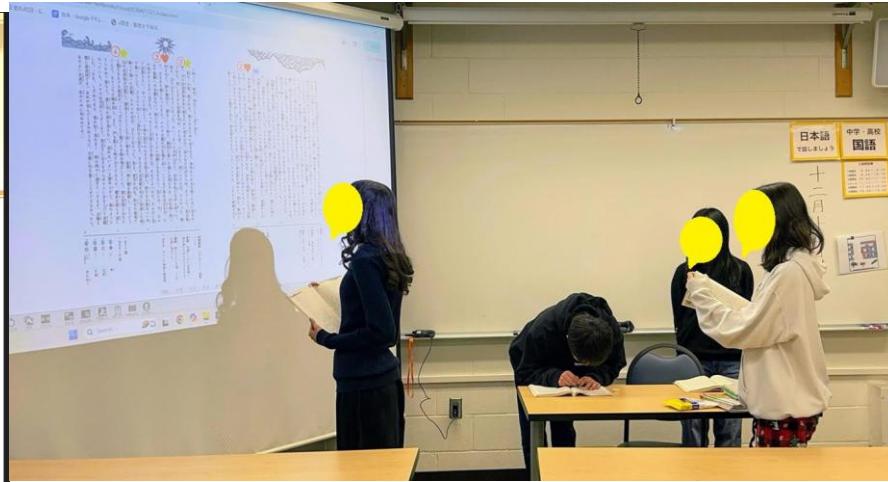
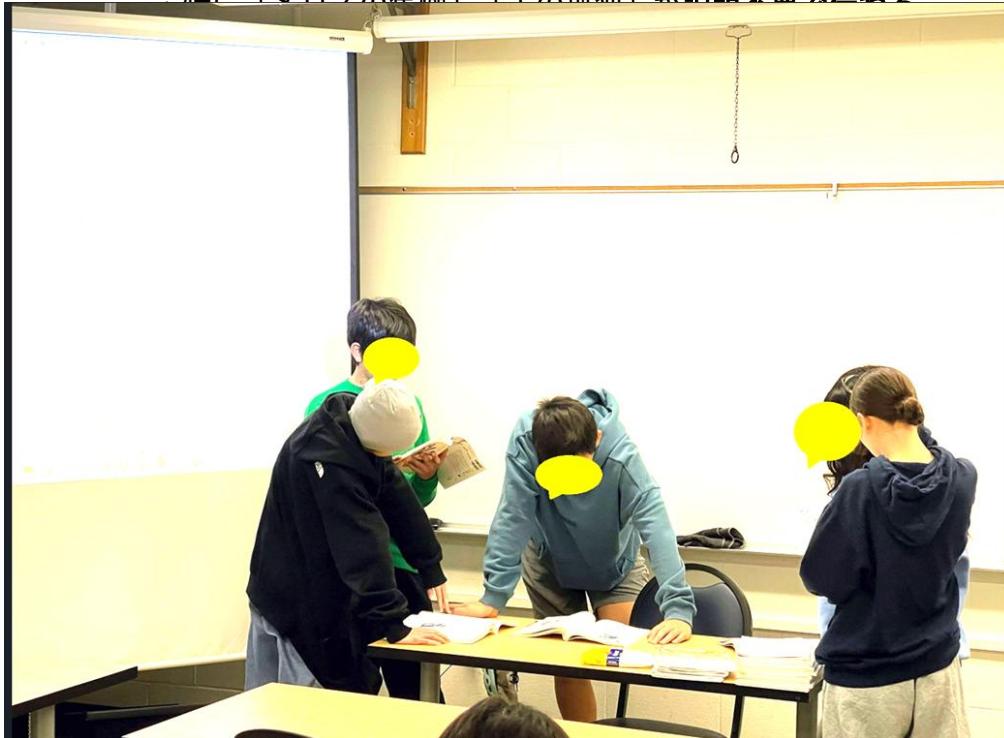
本番日	場面	読み順	担当班	音読ページ		場面	状況説明	読み担当者
			C		プロローグ	最初の挨拶		C: 伊東
1/24	1	1	B-1 (メロスはC1)	P 204最初～P 205 L 17	状況設定	メロスの人物設定と王の暴虐の様子		地の文: B-MM 村人: MM、C校 メロス①②③④
1/24	2	2	S-1	P 205 L 18～P 208 L 13※王の言葉①②③ P206/L9までB-松本	展開1	メロスと王の約束		王「わしの孤独の心はわからぬ」まで: B-MM
1/24	3	3	C-2	P 208 L 14～P211 L12	展開2	妹の結婚式 「メロスの足は、はたと止まった」まで。		地の文 名、メロス①～⑤
1/24	4	4	S-2	P 211 L 12～P 212 L 10	展開3	「見よ、前方の川を」から S-2最後の行revise⇒ 登り切ってほっとしたとき→登り切ってほっと した時に恋愛	試練一故郷への未練の情	地の文、メロス台詞①
2/14			B			ここから後半一中継ぎの挨拶(bridging remarks)		B校: MM
2/14	4	5	B-2 説明 C-3山賊メロス	P 212 L 11～P 213 L 1	展開3	メロスに次々と立ちはだかる試練 「P212 L11 突然、～P213 L1峠を下った」	試練一山賊の出現	説明: B校 メロス: C校 山賊: C校
2/14	4	5	C-3	P 213 L 1～P 215 L 2	展開3	メロスに次々と立ちはだかる試練	試練一山賊の出現	
2/14	5	6	S-3	P 215 L 3～P 216 L 10	山場	山場の始まり		
2/14	5	7	C-4	P 216 L 11～P 218 L 5	山場	山場	試練-フィロストラトスの言葉	
2/14	5	8	S-4	P 218 L 6～P 219 L 6	山場	セリヌンティウスとの再会 王の改心		
2/14	5	9	SC	P 219 L 7		「万歳、王様万歳」はS+C合同		「万歳、王様万歳」はS+C合 同で
2/14	6	10	C-5	P 219 L 8～最後	結末	終わり 少女+マント	地の言葉1名、セリヌンティウス1名	
			S		エピローグ	最後の挨拶		

C-28名 Cと書かれた所のみ担当	班の中でメロス役がわかるように古代ギリシャ衣裳着用（シーツ等で巻く）頭にオリーブの輪
S-12名 B校ー1名	班の中でメロス役がわかるように古代ギリシャ衣裳着用（シーツ等で巻く）頭にオリーブの輪

● サクラメント校の練習風景

文学を「理解」から「体感」へ

- 群読は；感情・間（ま）・リズム・重なりを通して、文章の意味が身体化される
特に「クロフの作戦」「工の作業」が詠唱で西本にわづ



- 聴く力が”本気”で鍛えられる
- 他校の生徒の台詞を聞き逃すと全体が崩れる構造
- 「聞いているふり」では成立しない
- 実用的な聴解力・集中力が育つ

ブルーミントン校の授業の様子

文章の感情理解が音声表現として可視化

ブルーミントン校1名の生徒が「一人じゃない」学びの共同体を実感

感情高ぶって早めに読むところに
落ち着いてゆっくり読むところに
つけよう

メロスは激怒した。必ず、かの羽翼堕落の王を除かなければならぬと決意した。メロスには政治がわからぬ。メロスは、村の牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮して来た。けれども邪悪に対するは、人一倍に敏感であった。きょう未明メロスは村を出発し、野を越え山越え、十里は離れた此のシラクスの市にやって来た。メロスには父も、母も無い。女房も無い。十六の、内気な娘と二人暮らしだ。この娘は、村の娘の律気な一人を、近く、花嫁として迎える事になっていた。結婚式も間近かなのである。メロスは、それと、花嫁の衣装やら祝儀の御馳走やらを賣いて、はるばる市にやって来たのだ。先ず、その品々を買いて集め、それから都の大路をぶらぶら歩いた。メロスには竹馬の友があった。セリヌンティウスである。今は此のシラクスの市で、石工をしている。その友を、これから訪ねてみるつもりなのだ。久しく逢わなかったのだから、訪ねて行くのが楽しみである。歩いているうちにメロスは、まちの様子を怪しく思った。ひっそりしている。もう既に日も落ちて、まちの暗いのは当りままだが、けれども、なんかか、夜のせいばかりでは無く、市全体が、やけに寂しい。のんきなメロスも、だんだん不安になって来た。路で逢った若い娘をつかまえて、何かあつたのか、二年まえに此の市に来たときは、雨でも雪でも雨をうたって、まちは暗やかであった事が、と質問した。若い娘は、首を振って答えなかった。しばらく歩いて、老爺に逢い、こんどはもっと、語勢を強くして質問した。老爺は答えなかった。メロスは両手で老爺のからだをやすぶって質問を重ねた。老爺は、あたりをはばかる低声で、わざと答えた。

「王様は、人を殺します。」

「なぜ殺すのです？」

「悪心を抱いている。というのですが、誰もそんな、悪心を持っては居りませぬ。」

「たくさんの人を殺したのか。」

「はい、はじめは王様の妹婿さまを。それから、御自身のお世嗣を。それから、妹さまを。それから、妹さまの娘子さまを。それから、皇后さまを。それから、貴臣のアレキス様を。」

「おどろいた。國王は乱心か。」

「いいえ、亂心ではなくませぬ。人を、信じる事が出来ぬ、というのです。このごろは、臣下の心をも、お堅いになり、少しく派手な暮しをしている者には、人質ひとりずつ差し出すことを命じて居ります。御命令を拒めば十字架にかけられて、殺されます。きょうは、六人殺されました。」

聞いて、メロスは激怒した。「呆れた王だ。生かして置けぬ。」

演出効果があると思う文や言葉に印をつけよう

メロスは激怒した。必ず、かの羽翼堕落の王を除かなければならぬと決意した。メロスには政治がわからぬ。メロスは、村の牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮して来た。けれども邪悪に対するは、人一倍に敏感であった。きょう未明メロスは村を出発し、野を越え山越え、十里は離れた此のシラクスの市にやって来た。メロスには父も、母も無い。女房も無い。十六の、内気な娘と二人暮らしだ。この娘は、村の娘の律気な一人を、近く、花嫁として迎える事になっていた。結婚式も間近かなのである。メロスは、それと、花嫁の衣装やら祝儀の御馳走やらを賣いて、はるばる市にやって来たのだ。先ず、その品々を買いて集め、それから都の大路をぶらぶら歩いた。メロスには竹馬の友があった。セリヌンティウスである。今は此のシラクスの市で、石工をしている。その友を、これから訪ねてみるつもりなのだ。久しく逢わなかったのだから、訪ねて行くのが楽しみである。歩いているうちにメロスは、まちの様子を怪しく思った。ひっそりしている。もう既に日も落ちて、まちの暗いのは当りままだが、けれども、なんかか、夜のせいばかりでは無く、市全体が、やけに寂しい。のんきなメロスも、だんだん不安になって来た。路で逢った若い娘をつかまえて、何かあつたのか、二年まえに此の市に来たときは、夜でも雪でも雨をうたって、まちは暗やかであった事が、と質問した。若い娘は、首を振って答えなかった。しばらく歩いて、老爺に逢い、こんどはもっと、語勢を強くして質問した。老爺は答えなかった。メロスは両手で老爺のからだをやすぶって質問を重ねた。老爺は、あたりをはばかる低声で、わざと答えた。

「王様は、人を殺します。」

「なぜ殺すのです？」

「悪心を抱いている。というのですが、誰もそんな、悪心を持っては居りませぬ。」

「たくさんの人を殺したのか。」

「はい、はじめは王様の妹婿さまを。それから、御身のお世嗣を。それから、妹さまを。それから、妹さまの娘子さまを。それから、皇后さまを。それから、貴臣のアレキス様を。」

「おどろいた。國王は乱心か。」

「いいえ、乱心ではなくませぬ。人を、信じる事が出来ぬ、というのです。このごろは、臣下の心をも、お堅いになり、少しく派手な暮しをしている者には、人質ひとりずつ差し出すことを命じて居ります。御命令を拒めば十字架にかけられて、殺されます。きょうは、六人殺されました。」

聞いて、メロスは激怒した。「呆れた王だ。生かして置けぬ。」

● シカゴ校の練習風景



今だからこそ出来る学習デザイン
走れメロスの定番教材を州・人数・学力差を超えて”群読劇×
オンライン×ＩＣＴで再構築
自分の声が作品を作る経験・自分の声が州を越えて届く
一人欠けると成立しない⇒自己有用感・責任感
聴く力が”本気”で鍛えられる

OPENING の言葉(シカゴ校)

みなさん、本日はご参加ありがとうございます。私たちは今日、インディアナ、カリフォルニア、そしてここシカゴ、離れた場所にいながら、同じ物語を声でつなぎます。太宰治の『走れメロス』は、人を信じることの難しさと強さを描いた作品です。それぞれの声が合わさることで、この物語がどんな響きをもつのか、どうぞ最後までお聴きください。

CANVA

背景制作＝情報活用能力



場面理解→視覚化⇒デザイン
色・構図・余白・文字量を考える
⇒国語×美術×情報の横断学習





bridging remarks

繋ぎの言葉

(ブルーミントン校)

ここから後半が始まります。前半では、メロスが何を信じ、何に迷ったのかを見てきました。

私たちブルーミントン校は、三校のちょうど真ん中に立つ学校として、前半から後半へ物語をつなぎます。

もう一度、メロスと一緒に走り出してみてください。













ENDINGの言葉 (サクラメント校)

ついに最後までたどり着きました！ メロスが走った道のりは、決して一人のものではありませんでした。今日の群読もまた、一人では完成しない物語でした。離れた場所から声を重ねたこの時間、みなさん的心に何が残ったでしょうか。

この群読劇は、たくさんの人の協力でできあがりました。うまくいったところも、緊張したところも含めて、私たちにとって大切な経験になりました。『走れメロス』が伝える「信じる気持ち」を、今日の時間と一緒に持ち帰れたらと思います。

物語は読み終わっても、今日生まれた声のつながりは、ここで終わりません。同じ日本語を学び、同じ物語を共有した仲間として、またどこかで会える日を願って。

以上で、ONLINE群読劇『走れメロス』を終わります。
ありがとうございました。

【第9問】

Slide 17 | 問題

問9

メロスとセリヌンティウスの行動によって、

王が失った考えはどれか。

- A 🤚 王としての威厳
- B 🤚 処罰の必要性
- C 🤚 人は信じられないという考え



【第10問】

Slide 19 | 問題

問10

「走れメロス」における「走る」の意味として
最も適切なものはどれか。

- A 🤘 体力と根性の象徴
- B ✌ 信義を守ろうとする生き方の象徴
- C 🤚 速さと勝負の象徴

